

ながいもの

種いも腐敗防止のための消毒法

野菜研究所

本県の主要野菜であるながいものは、昨年、台風等の被害を受け平成29年作付け用の種いもの不足が懸念されており、この不足を補うために切りもの利用が増加するものと考えられます。

ながいもの切り芋栽培では、**青かび病による種いも腐敗が問題**となるため、腐敗防止のためこれまで数種の薬剤試験に取り組んできた結果を紹介します。

「ヤマノイモ青かび病」



症状

収穫後の保管中や貯蔵中において発生し、腐敗部には青色のかびが見られる。また、植付け後の種いもに腐敗をもたらす。

病原

ペニシリウム属菌による。病原菌は土壌中に存在し、切り口から感染していもを腐敗させる。10℃以上の温度で腐敗が見られ、20～25℃で腐敗が進みやすい。

薬剤の使用法

農薬名	ベンレートT水和剤20	ベルコートフロアブル
希釈倍率	100倍	200倍
使用方法	10分間種いも浸漬	
使用時期	植付前	

※ 平成29年3月1日現在の登録内容。
使用の際は必ず最新の農薬登録情報を確認してください。

- ◆ 消毒後は風通しのよい場所に保管し、切り口をコルク化(乾燥)させる。
- ◆ 消毒後、切り口に消石灰を塗布するとコルク化が促進される。
- ◆ 長期間の保管は避け、早めに植え付けること。

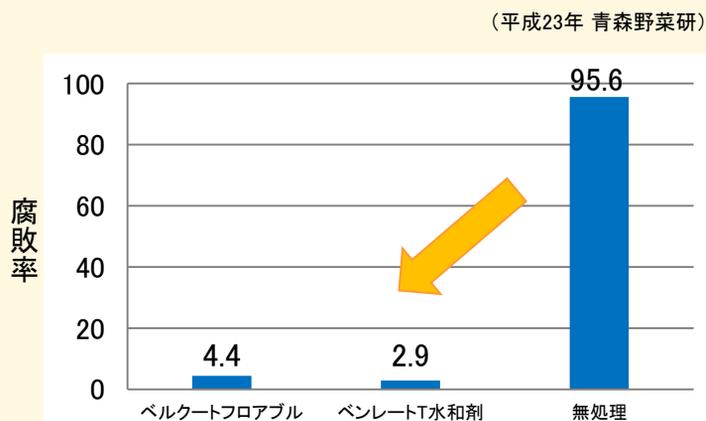
薬剤処理による種いも腐敗防止効果



消毒あり(ベンレートT水和剤20)



消毒なし



お問い合わせ

野菜研究所 病虫部 (Tel.0176-53-7085)